



日本遺産
JAPAN HERITAGE
糸部物語

由木中央小



令和8年6月30日
学校だより 第4号
八王子市立由木中央小学校
校長 松山 大作

教育目標 「すすんで学習をしよう」 「あったかい心をもとう」 「じょうぶな体をつくろう」
HP アドレス <https://hachioji-school.ed.jp/yugce/>

デジタル社会を生き抜く力を育む

校長 松山 大作

先日、教え子の同窓会に参加して驚いたことがあります。それは、若者のスマートフォン操作のスピードです。片手で素早く検索し、瞬時に必要な情報を得るのです。検索する時には、適切なキーワードを組み合わせる必要がありますが、その力が非常に優れていると感じました。

近年の調査では、小学校高学年で8割以上が、中学・高校生では9割以上がスマートフォンを所有しているとあります。SNSやゲームだけでなく、授業動画や翻訳などの勉強のツールとしても活用されています。また、AIの急速な進歩も世界中で注目を集めるようになってきました。このように、デジタル社会の進化が加速する中で、端末を使いこなす力はますます求められるようになり、小学生の頃から慣れ親しむ必要性を感じています。

一方、使い過ぎが原因で、生活に支障が出る懸念もあります。宿題に集中できなくなったり、読書量が減ったり、寝不足で登校を渋ったりするなどが問題視されています。スマートフォンに振り回されず、上手に利用するためには自己コントロールの力が必要ですが、現状では大人でもこれを維持するのは難しいとされています。実際に対策を取っている家庭は、全体の3割程度にとどまっているという調査結果もあります。また、制限を設けずにスマートフォンの使用を子どもに任せていると、親子間のトラブルにつながりやすい傾向が指摘されています。

さらに、スマートフォンを所持する子が増加するにつれて、SNSのやりとりをきっかけとした友人間のトラブルも増加しています。具体的には、「グループで自分だけ仲間外れにされた」「友達に自分の情報を勝手に送られた」「悪口を書き込まれて、学校に行けなくなった」など、いじめやトラブルにつながる事例が急増しています。これは、本校も例外ではありません。本来、スマートフォンを利用する側が、その使用に振り回されてしまい、逆にスマートフォンに支配されている場面も多く見受けられるようになり、強い危機感を抱いています。

このような状況を踏まえ、専門家は、利用時間や頻度などについて家庭でルールを設定することの重要性を指摘しています。ぜひ、夏休みを迎える前に、お子さんと一緒に話し合いの機会をもち、使用に関するルールを作っていただきたいと思います。本校では、6月1日に情報の専門家を招き、情報モラル教育を実施いたしました。今後もすべての子どもたちを対象にしたネットモラル教育を計画的に進めていく予定です。

デジタル社会の課題を乗り越えるには、子どもたちの「自律」の力を育むことが不可欠であると感じています。「自律」とは、自分の力で自分を適切に規制することを指します。具体的にはスマートフォンなどの使用時間を自分で管理したり、インターネット上での情報の取捨選択を意識したりすることがますます重要となってきます。子どもの「自律」を育むことは、自己制御力を高めるだけでなく、情報過多やネットいじめなどのリスクに対して適切に対応できる「自立」へとつながる重要な要素だと考えています。

今後も学校と家庭が密に連携し合いながら、デジタル化の進む21世紀の社会で、賢く、たくましく生き抜いていく子どもたちを育てていきたいと思っています。

「はちおうじっ子サミット」について

八王子市では、「いじめは絶対に許さない」という認識の下、八王子市立の全小中学校の代表者1名が集まり、意見交換を行います。

開放プールについて

7/18(土)～7/23(木)

本年度も本校で八王子市が運営する開放プールを行います。詳しくは八王子市のHPに掲載されております。ご確認ください。

【問い合わせ】スポーツ施設管理課 042-622-6720